

月刊 しばうら

2024年 10月号

牛肉営業部

令和6年度全国肉用牛枝肉共励会

セリ販売日 10月25日(金)

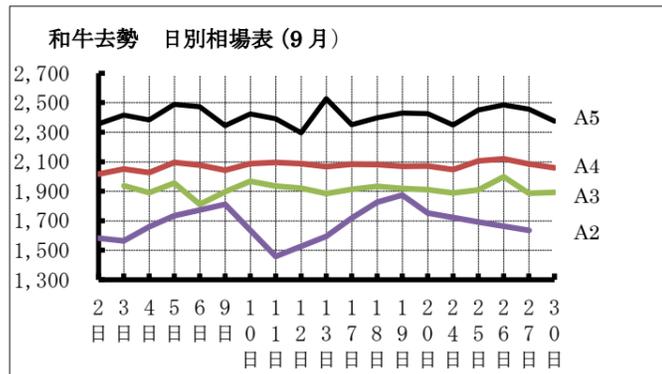
令和6年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る10月22日(火)～10月25日(金)にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は500頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が267頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が70頭、和牛牝牛が163頭を予定しております。

<行事予定>

- 10月22日(火) 午前10時00分より出品牛測定(和牛牝)
- 23日(水) 午前8時30分よりと畜解体(和牛牝)
午前10時00分より出品牛測定(乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛)
- 24日(木) 午前8時30分よりと畜解体(乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛)
- 25日(金) 午前6時30分より枝肉審査
午前8時45分よりせり販売(せり順 交雑→和牛雌→和牛去勢→搬入)
※ せり当日、生産者の方は8:10まで冷蔵庫の入室は出来ません

<9月の相場動向>

9月は3連休が2回あったことから、業者間で大きな期待が寄せられ、その結果、和牛・交雑牛ともに前月比でプラスになった。一方で前年対比ではロースの構造的販売不振から和牛5等級でマイナスとなった。お彼岸以降は急激に気温が下がり、スライス材などの鍋物需要に向けた売場の棚替えもみられたが、10月にも食品等の値上げが予定されていることから、消費者の節約志向は変わらず、牛肉需要の本格的な回復には至っていない。



和牛去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,425円	-106円 95.8%	+97円 104.2%
A4	2,076円	-3円 99.9%	+83円 104.2%
A3	1,915円	+96円 105.3%	+88円 104.8%
A2	1,674円	+123円 107.9%	+26円 101.6%

交雑去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,758円	+122円 107.5%	+51円 103.0%
B3	1,601円	+132円 109.0%	+24円 101.5%
B2	1,428円	+165円 113.1%	+22円 101.6%

乳牛去勢(月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	-	-	-

<10月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、8月の輸入量は前年同月比7.0%増の4万8,884tで、うちチルドは7.7%減の1万5,991tと下回った。フローズンは、前年同月比16.1%増の3万2,893tと上回った。

農畜産業振興機構によると9月の牛肉輸入数量は、前年同月比108.0%増の4万t(チルド1.2%増・冷凍13.0%増)、10月は4.5%減の3万8,500t(チルド8.1%減・冷凍1.8%減)で予測している。10月はチルドで豪州・米国産の減少が見込まれ、フローズンは米国現地相場の高騰が見込まれることから前年をわずかに下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	8月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	6,369	7,898	80.7%
	米国	8,317	8,089	102.8%
	その他	1,305	1,338	97.5%
	合計	15,991	17,325	92.3%
フローズン	豪州	16,297	12,362	131.8%
	米国	8,693	9,742	89.2%
	その他	7,903	6,240	126.7%
	合計	32,893	28,344	116.3%

出典：食肉速報 単位：t

<10月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による10月の出荷予測頭数は全体で前年比101.6%の9万8,100頭で、品種別にみると和牛は1.4%減の4万3,800頭、交雑種は13.1%増の2万5,300頭、乳用種は1.8%減の2万7,800頭と予測している。東京食肉市場の10月のと畜頭数は8,330頭を予定しています。

<10月の牛枝肉相場見通し>

10月に入っても気温の高い日が続く、スライス材へのシフトが遅れており動きは鈍い。また消費者の節約志向が継続しており、国内の牛肉需要や消費意欲は低迷すると考えられる。また中国の国慶節によるインバウンドについても、見込みは低いのではないかと予想されている。

和牛ロースの国内需要が低迷していることから、輸出先の国でも値崩れが起こりつつある。毎年秋口は、輸出用の和牛ロースの引き合いが高まる時期でもあるのでそれに期待したい。交雑種は出荷頭数が増加する予測だが、引き続き量販店等からの需要が見込まれ、引き締まった展開が継続するものと考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500～2,800	B4	1,700～1,800
A4	2,050～2,200	B3	1,550～1,650
A3	1,900～2,000	B2	1,400～1,500
A2	1,750～1,900		
乳牛去勢			
B3	1,050～1,150		
B2	950～1,050		

豚肉営業部

8月の全国と畜頭数は、122万2,786頭(前年同月比6.0%減)と前年を下回った。また、8月の豚肉通関数量は8万4,140t(前年同月比13.8%増)と前年を上回り、前月比では2.4%の減少となった。内訳はチルドが2万9,043t(18.1%減)、フローズンは5万5,098t(43.2%増)。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
比	94%	114%	105%	92%	96%	104%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

8月豚肉通関実績						
	アメリカ	デンマーク	スペイン	メキシコ	アメリカ	カナダ
アメリカ	11,288	82.1%	6,076	160.7%		
カナダ	15,419	86.2%	15,240	130.6%		
メキシコ	2,335	61.3%	5,655	70.3%		
			アメリカ	7,244	261.9%	
			カナダ	3,493	130.6%	
合計	29,043	81.9%	55,098	143.2%		

単位：t

<9月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	63,400	646	632	816
3日	64,100	659	644	902
4日	58,800	682	648	703
5日	61,600	689	680	746
6日	56,600	721	706	1,061
9日	64,500	731	722	843
平均	61,500/日			845/日

9月に入っても厳しい暑さが続いたが、朝晩の気温は下がり始めた。全国と畜頭数は6万頭を割り込む日もみられ、供給が潤沢ではない状況ではあったが末端消費が伸び悩んだことで品薄感はなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	65,000	759	749	1,032
11日	62,800	724	706	928
12日	62,600	697	681	892
13日	64,100	712	702	984
17日	72,600	704	673	900
18日	68,800	689	653	982
平均	65,983/日			953/日

3連休の特売に向けた手当て買いによって、相場は700円絡みの高値で推移した。スソ物を中心に堅調な動きであったが、米価や野菜の高騰などの影響から消費者の節約志向がより強まり、円安が落ち着いたこともあって輸入物へシフトする動きもみられた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
19日	67,700	670	633	977
20日	67,200	653	621	949
24日	72,600	640	599	758
25日	68,900	621	592	972
26日	67,900	531	507	1,037
27日	65,900	555	537	1,062
30日	65,100	560	555	782
平均	67,900/日			934/日

猛暑の影響で伸びなかった出荷頭数が徐々に回復し増加傾向となった。相場は末端消費が鈍かった影響を受け、軟調な展開が続き、26日には上物が前日比で90円急落した。

<10月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年10月の肉豚出荷予測では143万2,000頭(前年比99.6%)と予測している。

当市場の10月集荷予定せり頭数は1万9,000頭、1日あたりでは約863頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると10月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万3,800t(同119.5%)、内訳は冷蔵輸入量が3万600t(同91.4%)、冷凍輸入量は5万3,200t(同145.4%)と予測。

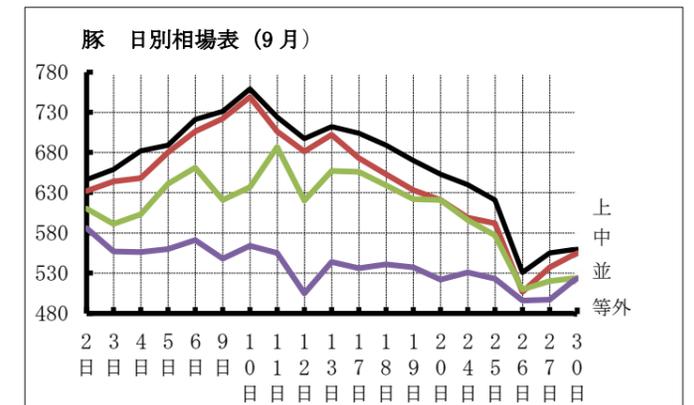
冷蔵品輸入量は、為替や現地相場高の影響等により低調に推移するなか、輸入量のほとんどを占める米国産、カナダ産及びメキシコ産のいずれも減少が見込まれるため、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。同じく、3ヵ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

冷凍品輸入量は価格優位性からブラジル産や北米産、EU産の輸入量増加が見込まれることなどから、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

10月は例年、気温の低下とともに出荷頭数が増加するが、今年は全国的に最高気温が高い日が多い予報で、朝晩の寒暖差の影響による増体不良、呼吸器疾患などによって予想より出荷頭数が減少する可能性がありそうだ。

相場の見通しとしては、3連休前の手当て買いによって一時的に上昇し、連休明け以降は在庫補充が一巡すれば、基本的に下げ基調となると予想する。

以上のことから当市場の上物平均価格は560円前後、中物平均価格530円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127